

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	12	課題区分	C	令和4年(2022年)3月17日	
横断的な課題	2交流と地消地産や産業振興による地域の活性化						
地域重点政策	2産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興					上田地域振興局	
実施機関	上田地域振興局			担当課	所属	農業農村支援センター	
事業名	ワイン用ぶどう生産支援事業				電話	0268-25-7125	
					E-mail	ueda-nogyo@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	千曲川ワインバレーにおけるワイン主産地として、ワイン用ぶどう栽培面積の拡大や品質向上、並びに生産者の確保育成に取り組む。(ワイン用ぶどう栽培面積: R元年度実績95ha、R4年度目標110ha)					
	現状と課題	ワイン栽培の歴史は浅いが、栽培適地として知名度向上等により、栽培面積やワイナリー数は増加傾向にある。しかし異常気象が常態化し生産技術の省力化が求められる中で、栽培技術の向上やスマート農業への取り組み、生産者同士の情報共有が重要となっている。また面積拡大に伴い高標高地での栽植も進んでおり、データ収集と新たな栽培管理技術の対応が必要である。					
	内容 (変更後の内容)	<p>1 栽培技術の向上と交流促進(生産者技術セミナー開催) 生産者の栽培技術向上や交流の促進を通じワイン産地の基盤強化を図るため、ワイン用ぶどう栽培者を対象に生産者技術セミナーを開催する。(12月)</p> <p>2 スマート農業の普及実証(スマート農業実演会開催) 新しい栽培形態としての導入を実証するため、自動草刈機(5月)や摘芯機(8月)による現地検討会・実演会を開催する。</p> <p>3 高標高地域での現地適応性調査 高標高地域における冬期間の定点観測結果を活用し、凍害対策の検証を行い生産者への周知を図る。また造成地における生育不良要因を究明するため、土壌調査(断面・成分等)を実施する。</p>					
	事業期間	R3年(2021年)4月		～	R4年(2022年)3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	生産者技術セミナー開催	講師の招聘、交流会の開催	53,100	講師旅費、謝金			
	スマート農業実演会開催	講師の招聘、実演会の開催	0	講師謝金、ほ場借上げ			
	高標高地域現地適応性調査	現地ほ場調査・土壌分析調査	47,680	土壌調査			
	合計		100,780				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	ワイン用ぶどう栽培面積		108ha(R3)	120ha(R3)	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	<p>1 生産者技術セミナーの開催 生産者の技術レベルの向上を図るため技術セミナーを開催した。(上田市 12/16) 生産者等30名が参加し、栽培技術の研修を行った。栽培技術や病害虫対策等への理解が深まり、また生産者と講師とのつながりができた。</p> <p>2 スマート農業実演会の開催 東御市において、メーカー5社が参加した自動草刈機(5/11、約40名)の実演会やワインぶどう摘芯機(7/21、約100名)による実演会を開催した。生産者やワイナリー関係者が大勢参加し、作業機の動作や使い勝手などを確認することができた。</p> <p>3 高標高地域現地適応性調査 高標高地域における冬期間の定点観測結果を活用し、凍害対策の検証を行い技術セミナー(12/16)で生産者への周知を図った。また東御市祢津御堂ワインぶどう団地における生育不良要因を究明するため、土壌調査(断面・成分等)を実施し、生産者への説明会(11/9、約20名)を行った。</p>						
	今後の方向性	技術セミナーは生産者に好評なことから、その年の課題に合わせ開催する。スマート農業は日々省力化・機械化が進んでいることから適宜実施する。また祢津御堂団地の生育不良の原因が不明な部分もあり、引き続き調査研究する。					